

# 「第13回 事例発表会」

令和2年10月1日(木)

読売新聞に掲載されました



参加者の経験を発表する  
草たち(柳田、前橋市)

## 体験談や解決策 福祉施設間共有

前橋で発表会

福祉施設の間で情報を共有してサービスを向上させよう。有料老人ホームなどを運営する社会福祉法人ほたか会は30日、事例発表

会をベトナム文化ホール(前橋市)で開催した。

テーマは「外国人スタッフとの共生」と「管理業務の改善」。計18事業所がそれぞれの経験を基に、苦労した体験や解決策などをスライドショーを使いながら発表した。

グループホーム城東(同市)では、母の日など年の節目に提供する食事について、利用者から「肉も食べたい」や「量が少ない」などの意見があったという。それらを改善することで「入居者の『食べたい』という気持ちに寄り添っていきける」と発表した。

また、介護老人保健施設の青梨荘(同市)では、現在8人の外国人スタッフが働いており、当初は宗教上の理由で断食をして

作中に倒れてしまうこともあったという。理解を得るのに苦労はしたものの、日本での仕事のメサなど、根気強く説明し、今では「国境を超えてのメサがアができるようになった」と語った。

ほたか会の樋口明理事長(48)はそれぞれの発表が、研鑽に励むための刺激になればいい」と話した。

